

- 調査期間** 2007年4月1日～調査中
- 所在地** 伊勢原市西富岡
- 時代** 近世、中世、奈良・平安、古墳、縄文
- 調査原因** 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 遺跡位置** 小田急小田原線伊勢原駅の北北西約2kmの富岡丘陵上



主な調査成果

縄文時代から近世にいたるまでの遺構や遺物が発見されました。

縄文時代では、中期後半の竪穴住居跡が1軒と土坑や集石が見つかっています。古墳時代では、前期の竪穴住居跡が1軒と土坑や溝が見つかっています。中世では、土坑や流路が見つかっています。流路からは、直径2～3cm程度の竹を乱杭状に打ち込んだしがらみ状遺構が見つかっています。しがらみ状遺構は、調査範囲外へ広がるため、性格は判然としませんが、流路あるいは水田の護岸のために打ち込まれたものと推測されます。近世では、1707（宝永4）年の富士山噴火による火山灰で埋もれた畝が見つかっています。



29-3e②区 H7号住居全景



29-3e②区 J1号住居全景